

ウォーターPPPについて

令和7年12月

光市 都市政策部 下水道課

目 次

ウォーターPPPについて

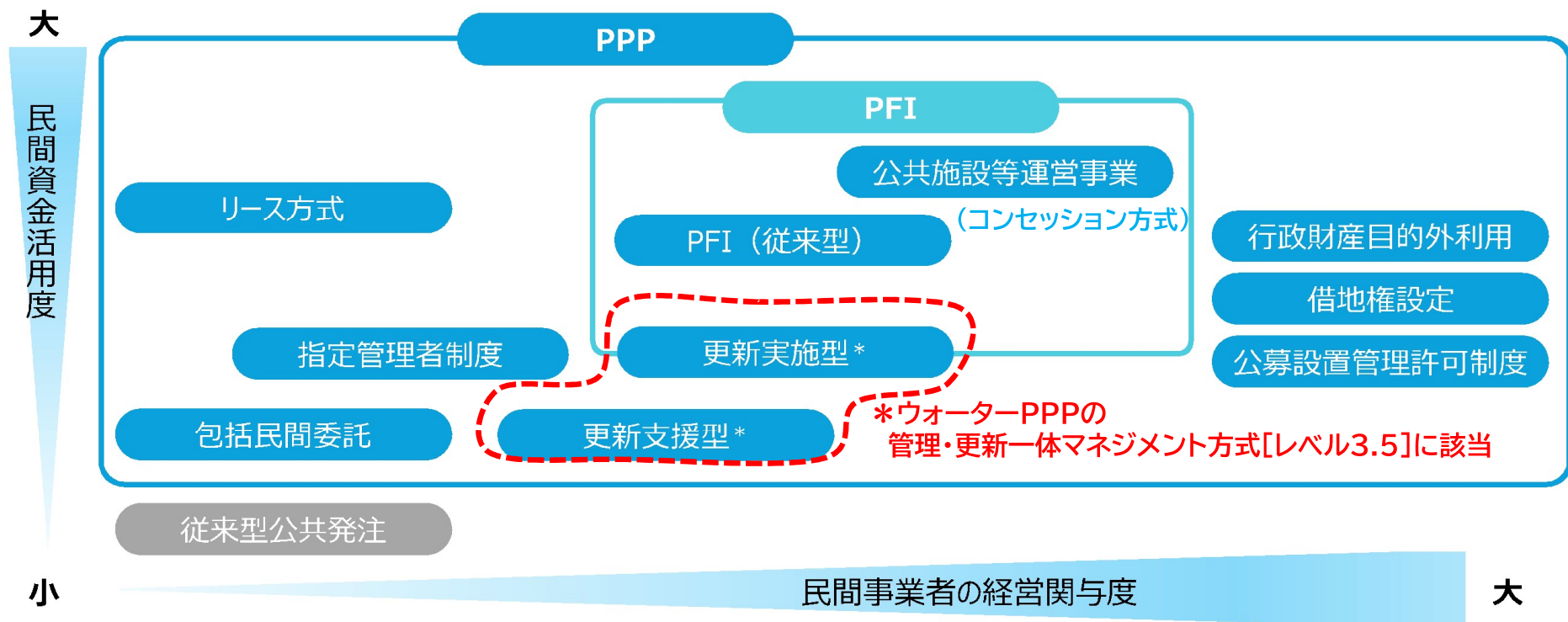
- 1-1.官民連携手法～PPP(Public Private Partnership)～とは
- 1-2.ウォーターPPPの概要
- 1-3.管理・更新一体マネジメント方式[レベル3.5]について
- 1-4.レベル3.5の4要件について
- 1-5.「更新実施型」と「更新支援型」について
- 1-6.地元企業の参画の考え方

ウォーターPPPについて

1-1. 官民連携手法～PPP(Public Private Partnership)～とは

- PPP(Public Private Partnership)とは、公共施設等の建設、維持管理、運営等を**行政と民間が連携して行う**ことにより、**民間の創意工夫等**を活用し、**財政資金の効率的使用や行政の効率化等**を図る手法のことです。
- 包括的民間委託、PFI(Private Finance Initiative)など、様々な方式が存在します。

【PPPの概要】

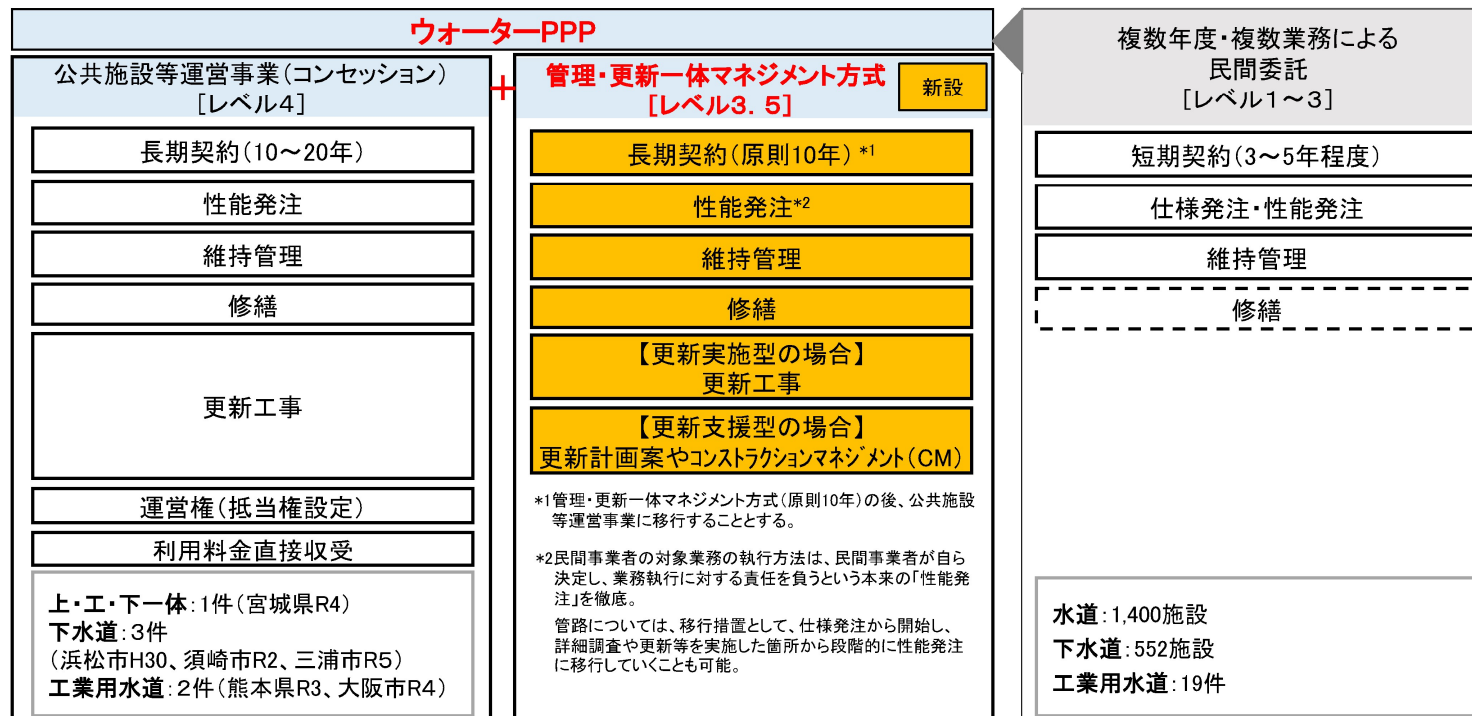


ウォーターPPPについて

1-2. ウォーターPPPの概要

- 「ウォーターPPP」とは、**コンセッション方式[レベル4]**と**管理・更新一体マネジメント方式[レベル3.5]**を総称したものであり、従来別々に委託していた業務の一本化や長期契約により民間のノウハウ・創意工夫の有効な活用を期待できる官民連携(PPP/PFI)の手法の一つです。
- また、污水管の改築に係る国費支援に関して、ウォーターPPP導入を決定済みであることを令和9年度以降に要件化されています。

【ウォーターPPPの概要】



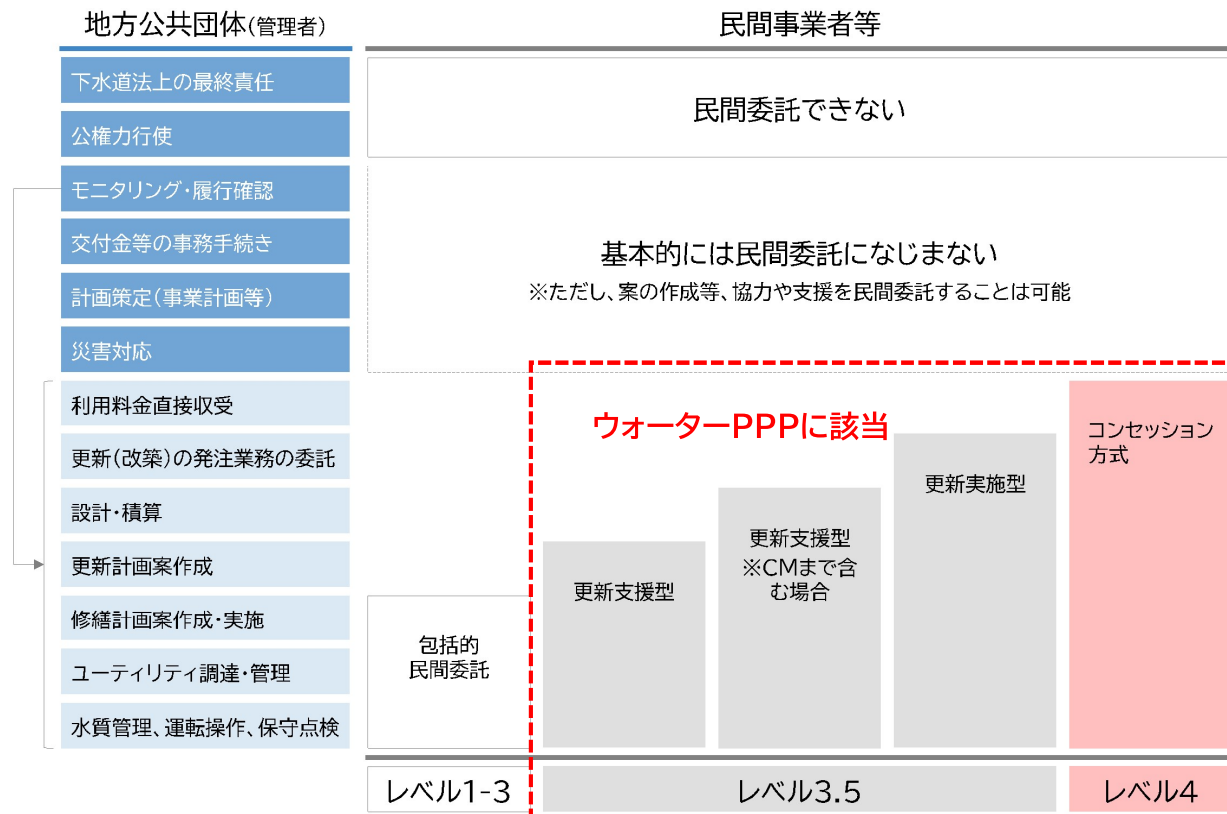
出典: 内閣府「ウォーターPPPの概要」

ウォーターPPPについて

1-3. 管理・更新一体マネジメント方式[レベル3.5]について

- レベル3.5は、維持管理に更新(改築)の要素が加わり、一体となること、公共施設等運営権の設定を必要としないこと等から、**レベル4に準ずる効果・メリットでかつ取り組みやすいもの**になっています。
- なお、レベル3.5とレベル1～3 は、事業期間の長短、性能発注の程度が異なり、また、修繕や改築に
関係する業務範囲が設定されるか否かの点で大きく異なります。

【レベル3.5の業務範囲(イメージ)】



ウォーターPPPについて

1-4. レベル3.5の4要件について

- レベル3.5は、①長期契約(原則10年)、②性能発注、③維持管理と更新の一体マネジメント、④プロフィットシェアの4要件をすべて充足する民間委託です。

◆ 4要件の趣旨

①長期契約(原則10年)

- ✓ 投資効果の発現等に必要な事業期間を確保

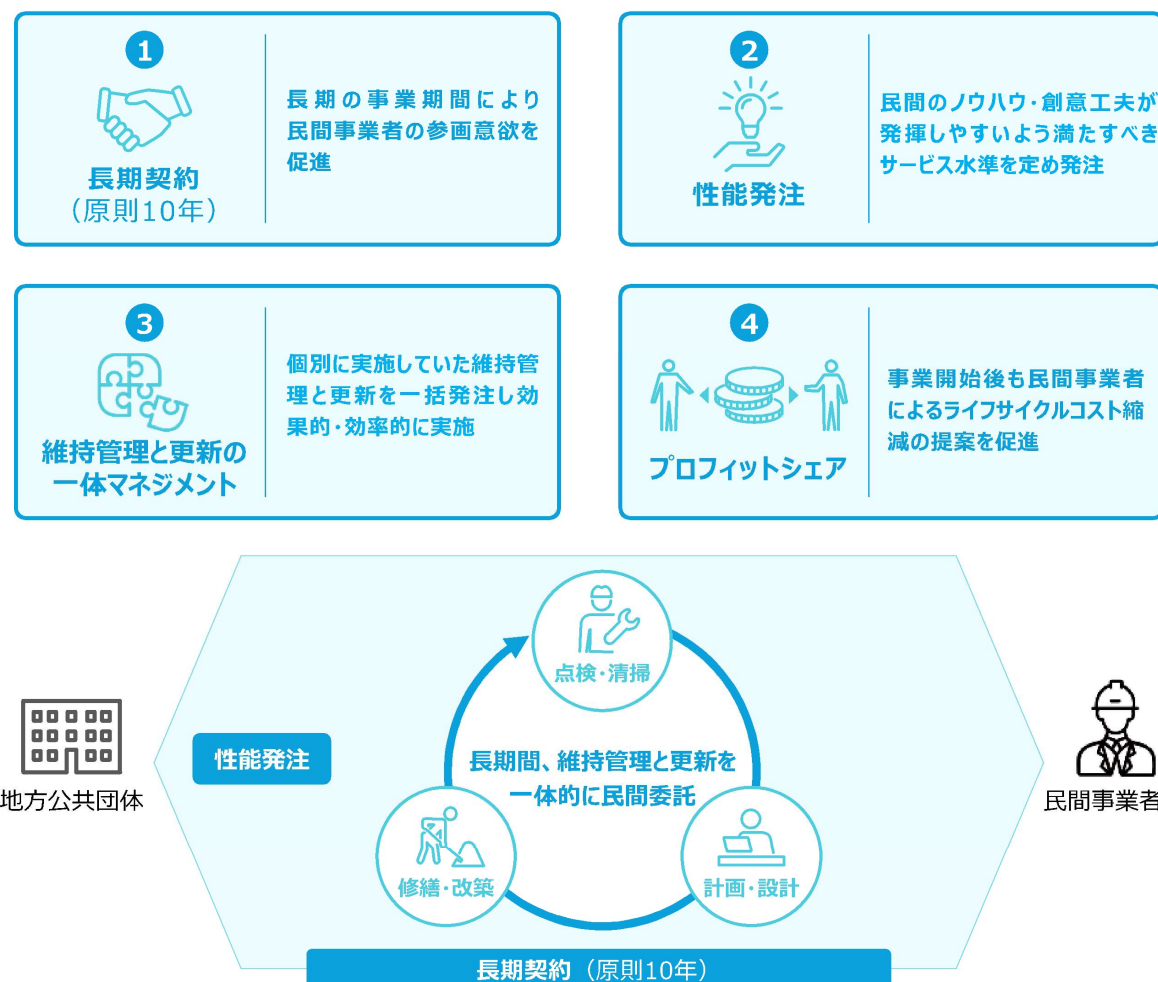
②性能発注

③維持管理と更新の一体マネジメント

- ✓ 民間事業者等の創意工夫やノウハウ等を最大限活用

④プロフィットシェア

- ✓ 新技術等の効果・メリットを官民で享受

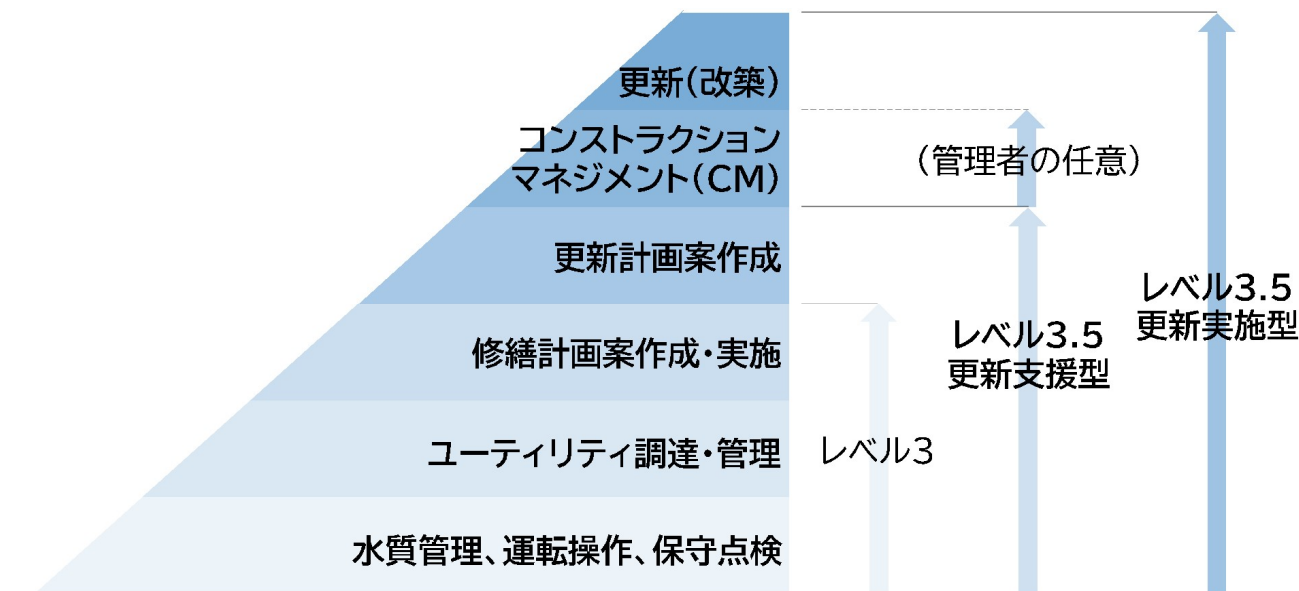


ウォーターPPPについて

1-5.「更新実施型」と「更新支援型」について

- レベル3.5は、維持管理と更新を一体的に最適化するための方式として、「更新実施型」または「更新支援型」を基本とします。
- 課題解決や持続性向上の観点から、管理者の任意で「更新実施型」か「更新支援型」を選択ないし組み合わせることとなります。
- ✓ 「更新支援型」は、更新計画案作成まで含むもの(改築は管理者が実施)であり、コンストラクションマネジメント(CM)まで含むか否かは管理者の任意になります。
- ✓ 「更新実施型」は、更新(改築)の発注業務の委託まで含むもの(改築は受託者が実施)です。

【更新実施型と更新支援型のイメージ】



ウォーターPPPについて

1-6. 地元企業の参画の考え方

- 地域の上下水道の実情を熟知している地元企業は、上下水道の持続性向上の観点から、**ウォーターPPPとの関係でも重要な存在**となります。
- 先行事例では、地元企業が受託者グループの代表企業を務めるもの、メンバーや協力企業となるもの、再委託を受けるものなどが存在し、**地域の実情に応じた多様なパターンが想定**されます。

【地元企業参画のイメージ】

